



tsu

na

gu

+ believe

— 関西医科大学と地域をつなぐ連携誌 —

枚方病院

杉江知治 関西医科大学附属枚方病院
乳腺外科 診療教授
「乳腺外科の体制強化について」

倉田宝保 関西医科大学附属枚方病院
呼吸器腫瘍内科 診療教授
「呼吸器腫瘍内科 科長着任のご挨拶」

渋谷 卓 関西医科大学附属枚方病院
末梢血管治療科 診療教授
「血管外科診療の基点として」

兒島由佳 関西医科大学附属枚方病院
歯科・口腔外科 病院講師
「歯科・口腔外科 開設のご挨拶」

滝井病院

川副浩平 関西医科大学附属滝井病院
心臓血管病センター長 理事長特命教授
「心臓血管病センターが始動しました」

山本大悟 関西医科大学附属滝井病院
乳腺外科 科長
「滝井病院乳腺外科が再開しました」

宇都宮啓太 関西医科大学附属滝井病院
PETセンター長
「滝井病院のPET-CT 検査について」

香里病院

吉田 良 関西医科大学香里病院
外科 部長
「信頼される医療を」

上尾礼子 関西医科大学香里病院
皮膚科 部長
「地域医療を支える皮膚科として」

濱田聡子 関西医科大学香里病院
耳鼻咽喉科 医長
「安心していただける医療を」

福井勝也 関西医科大学香里病院
腎泌尿器外科 医長 / **小糸悠也** 医員
「尿路結石症治療〈マルチパフォーマンスレーザー〉導入」

西岡良子 関西医科大学香里病院
外来化学療法室 がん化学療法看護認定看護師
「化学療法治療の看護支援は私におまかせ」

天満橋 総合クリニック

浦上昌也 関西医科大学天満橋総合クリニック
院長
「天満橋総合クリニックは、予防医療を軸とした
地域医療連携をさらに促進いたします。」



乳腺外科の体制強化について

すぎえ ともはる
杉江 知治

関西医科大学附属枚方病院
乳腺外科 診療教授

の度、平成 25 年 4 月 1 日付で
関西医科大学外科学講座乳腺外科診療教授を拝命いたしました。北河内地区の先生方ならびに関連医療機関の皆様にはこの場をおかりしてご挨拶申し上げます。

私は、京都生まれの京都育ちで、昭和 62 年に京都大学医学部を卒業後、ただちに外科学講座に入局いたしました。関連病院で外科医として 5 年間の修練を積んだ後、平成 4 年に京都大学大学院医学研究科に帰学し、学位取得後の平成 9 年からはスタンフォード大学へ留学し、そこで 4 年間の研究生活を送りました。平成 13 年に帰国し、京都大学腫瘍外科をへて関連病院で外科医として勤務しておりましたが、京都大学に乳腺外科が新設されたことを機に、平成 20 年に京都大学に戻り、助教ならびに准教授として 5 年間、京都大学での乳癌診療、研究、教育に取り

組んでまいりました。

乳癌は、わが国の女性が最も多く罹患する癌腫であり、その死亡率も上昇傾向にあります。この乳癌の予後を改善するためには、乳癌検診を普及することに加え、手術、放射線治療、化学療法、ホルモン療法、分子標的療法を組み合わせ集学的治療を実践することが必要です。特に、乳癌診療に関するここ数年にわたる進歩は著しく、患者個人に見合った個別化治療も進められています。私は、関西医科大学がこの北河内地区における検診精査機関としての役割を十二分に果たし、科学的根拠に基づいた安全で安心な乳癌診療を地域の方々に提供できるよう努めてまいります。さらに、新しい医療技術の開発にも力をいれ、本年度中には、先進医療として経口抗癌剤である TS-1 を併用する術後ホルモン療法やゾレドロン酸を併用する術前ホルモ

ン療法を枚方病院でも開始する予定にしております。手術では、インプラントを用いた乳房再建手術が保険承認され、枚方病院は本年 7 月に再建用インプラント実施施設として認定されました。今後は、形成外科と連携しながら、根治性と整容性をかねた乳癌手術を行ってまいり所存です。

関西医科大学では枚方病院、香里病院に加え滝井病院でも 7 年ぶりに乳腺外科を再開いたしました。私共は、この乳癌領域において地域の皆様のご期待にそえますよう今後も診療活動につとめてまいります。検診で要精査となった方、あるいは乳癌疾患が疑われる方がおられましたら、どうか遠慮なく私共にご相談いただければ幸いです。今後とも皆様のご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

トピックス

がん治療・緩和センターを開設します

厚生労働省は、緩和ケアを組み入れたがん診療提供体制の構築に向け、その具体的なあり方などの検討を進めています。昨年 4 月に設置された緩和ケア推進検討会では、「都道府県がん診療連携拠点病院等に、これまでの緩和ケア体制をさらに強化した緩和ケアセンターを整備する」方針を打ち出し、センターの機能を明確にするとともに、拠点病院が取り組むべき緩和ケアの課題が提示されました。

具体的な機能としては、①患者・家族の意思決定環境、②苦痛のスクリーニング、③基本的緩和ケア、④専門的緩和ケアとそこへのアクセスの改善、⑤相談支援、切れ目のない地域連携体制などです。

関西医科大学附属枚方病院では、がんと診断された時、高度な医療を提供するのはもちろんのこと、それと同時に早期から患者および家族の苦痛・不安をサポートすることをこれまで以上に積極的に取り組んで参ります。その実現のために、全国に先駆け、化学療法センター（待ち時間解消のため 20 床から 35 床に増床）と緩和ケアセンターを同エリア内に併設する『がん治療・緩和センター』を開設することになりました。がん治療中の患者さんであればいつでも緩和ケアのサポートが受けられます。



呼吸器腫瘍内科 科長着任のご挨拶

くら た たかやす
倉田 宝保

関西医科大学附属枚方病院
呼吸器腫瘍内科 診療教授

平成 25 年 4 月 1 日付にて、関西医科大学内科学第一講座・関西医科大学附属枚方病院 呼吸器腫瘍内科診療教授を拝命いたしました倉田宝保と申します。私は平成 2 年に広島大学医学部医学科を卒業しました後に呼吸器病学を専門の一つとしておりました広島大学第 2 内科に入局いたしました。医師になりはじめて担当した症例が 40 歳前後の若い肺癌患者であったこと、その患者さんの壮絶な癌との戦いに直面し、ぜひとも呼吸器病学の中でも肺癌診療に携わりたいという思いが強くなり、また医局の先生の計らいもあり国立がんセンター中央病院での研修（レジデント）という機会を与えていただきました。抗がん剤の臨床試験研究、薬物動態研究、新薬開発に関連する治験などに従事することで肺癌診療のみならず臨床腫瘍学の基礎を学ぶことができたとともに多くの国内外の先生方との人脈も形

成することができました。その関係で 2001 年に近畿大学に腫瘍内科講座を作りたいので手伝ったほしいと肺癌治療でご高名な福岡正博先生よりお誘いを受け、以後関西を拠点に肺癌診療、研究を中心に腫瘍学の発展のために努力をして参りました。

このたび縁がありまして伝統のある関西医科大学に赴任させていただきましたが、関西医科大学が診療圏としている北河内地区は、大阪府下で大阪市域に次いで人口が多く、多くの肺癌症例が受診されてきます。私が医師になったころの 20 年以上前と比較し、肺癌治療も大きな変革がもたらされております。癌の発生、増殖、進展に大きく関わる遺伝子異常（EGFR 遺伝子変異、ALK 融合遺伝子変異）が発見され、それらに対する阻害剤（分子標的薬剤）が開発されたことでこれまでにない効果が報告されています。こ

のような肺癌の最先端の治療を積極的に取り入れて地域の患者様に貢献していきたいと考えておりますとともに新しい治療法の導入および新薬開発といった臨床研究にも力を入れ、多くの患者様に有望な治療をより早くお届けできるよう、結果、全国のトップレベルの肺癌医療の施設として認知いただけるよう努力して参る所存です。

最先端の医療や研究を志す一方で、多くの患者様に気軽に受診していただけるような、地域の先生方に気軽に患者様を紹介および相談していただけるような明るい科を目指しており、雰囲気作りにも力を入れていきたいと思っております。何かお気づきの点がございましたらいつでもご教授いただければ幸いです。

今後とも何とぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

枚方病院『がん治療・緩和センター』の役割

- 1) がん専門看護師、がん性疼痛看護認定看護師、がん化学療法看護認定看護師、社会福祉士からのサポートをいつでも提供できる体制とします。
- 2) 地域医療機関との連携や在宅支援さらには医療・福祉・介護などに関する情報提供、経済的な負担に関する相談をしやすい環境を整備します。
- 3) がん治療のみならず患者を取り巻く環境をチーム一丸となって支えていきます。



当院は北河内地区における国から指定された唯一の地域がん診療連携拠点病院であることから、その使命を果たすべく、これまで以上にがん治療の質を高め、より安全な治療を行い、本当の意味で安心して受診できる環境を上げていきたいと思っております。また「顔と顔の見える」信頼できる地域医療機関や緩和ケア病棟などとの併診を行うことでよりシームレスな医療提供を推進します。現在、今年度内のセンター運用開始を目指し、鋭意計画を推進中です。



血管外科診療の基点として

しぶや たかし
渋谷 卓

関西医科大学附属枚方病院
末梢血管治療科 診療教授

平成25年4月1日付けで関西医科大学枚方病院血管外科に就任しました渋谷 卓です。近畿地方は血管外科が脆弱です。このことは患者に十分な治療を受けるチャンスが少ないという弊害をもたらしています。一方生活環境・疾患構造の欧米化により血管疾患は増加の一途で、今後はこれまでの様な診療体制ではニーズに答えきれなくなるのは明白です。枚方病院ではこの度新しく血管外科がスタートしました。地域に血管外科を根づかせること、血管病患者に十分な治療が受けられるよう、血管外科診療を充実させていきたいと思っています。

〈自己紹介〉

私は川崎医科大学を卒業後、昭和63年に大阪大学第2外科に入局し、消化器外科の一部として血管疾患に携わりました。平成9年に小口径人工血管の開発で学位を取得しています。また当時日本で行われ始めていた腹部大動脈瘤に対するステントグラフト内挿術は手作り時代から関わってきました。平成14年からは大学の診療科再編で心臓血管外科の一部として血管疾患に携わっています。血管外科疾患を消化器外科、心臓血管外科の両側から見ながらこれまで大阪、阪神地域で臨床に携わってきました。これまでのネットワークを生かしながら今後京阪地域でも血管外科の拡充に寄与できればと思います。

〈血管外科の方針〉

血管外科の守備範囲は大動脈から四肢末梢の動脈、内臓動脈、静脈と広く、治療も外科的血行再建、血管内治療、薬物療法、運動療法、血管新生治療など多岐にわたります。我々は血管疾患に関し外科手術だけに留まらず多くの選択肢の中からより適切な治療法を行います。

大動脈瘤はこれまでの開腹手術に加え、低侵襲治療であるステントグラフト治療を積極的に取り入れています。

末梢動脈疾患は積極的な外科的血行再建（足部へのバイパス術）はもちろんのこと、血管内治療（ステント治療）を同時に行うハイブリッド手術により、低侵襲化を図っています。また、糖尿病、高血圧、脂質異



閉塞性動脈硬化症
足部へのバイパス術+腸骨動脈ステント留置術

常症、慢性腎不全や創傷の管理が非常に重要であり、これらは多くの分野の先生方と連携をとりながら最適な治療を目指します。

静脈瘤、うっ滞性下腿潰瘍など静脈疾患に対しては、圧迫治療、硬化療法、手術（抜去術、高位結紮術、瘤切除術）、レーザー焼灼術などの一般的治療に加え、静脈弁形成術、SEPS（内視鏡的筋膜下穿通枝結紮術）など先進的治療を厳密な適応のもと行っています。

以上、簡単ではありますが関西医科大学枚方病院 血管外科/外科学講座末梢血管治療科のスタートについてご紹介致しました。皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

シャトルバスの運行を 始めました。

- 運行日** 病院開院日
- 運行時間** 9:00~14:00の間
1時間に4本運行 (15分間隔)
※10時台は1時間に2本運行
- 乗り場** 病院正面玄関前
- 降り場** 枚方市駅東改札口下車
北側ターミナル
- その他** 枚方市駅北側ターミナルで
停車中のバスを見かけたら
枚方病院までご乗車
いただくことも可能です。

歯科・口腔外科 開設のご挨拶

こじま ゆか
児島 由佳

関西医科大学附属枚方病院
歯科・口腔外科 病院講師

この度、関西医科大学附属枚方病院歯科口腔外科に就任しました児島由佳です。まず簡単に自己紹介をさせていただきます。

平成7年大阪大学歯学部を卒業し、一年間一般歯科開業医で勤務をし、翌年京都大学歯科口腔外科に入局致しました。

京都大学歯科口腔外科で研修をし、京都第一赤十字病院 歯科口腔外科に4年勤務、その後新香里病院 歯科口腔外科に4年勤務、宇治武田病院 歯科口腔外科医長として2年勤務、枚方公済病院 歯科口腔外科医長として5年余り勤務と、今まで臨床一筋でやってまいりました。

この度、この関西医科大学附属病院に耳鼻咽喉科所属としての歯科口腔外科を立ち上げることとなりました。

近年、医科において何らかの疾患を持たれる患者さんの口腔ケアが、合併症を出来る限り予防するという意味においても大変重要であると言われてしています。

口腔ケアが術後の合併症をかなりの割合で減少させることも実証されています。

口腔領域の役割や疾患、またそのケアというものが全身疾患といかに関わりのあるものであるかということ踏まえても、医科の病院の中にも歯科の存在は不可欠なものだと思われれます。

歯科衛生士による専門的口腔衛生管理にも重点を置き、手術および化学療法前後の周術期口腔機能管理など積極的に行っていきたいと思っております。

また地域の歯科医院との連携を図り、紹介患者さまの口腔外科的疾患や手術なども行います。

大学病院として、また耳鼻咽喉科所属としての口腔外科のあり方を考え、今後は研究にも取り組みながら、患者さまの立場での医療を目指していく所存ですので、どうぞご指導ご鞭撻のほど、よろしくごお願い申し上げます。



関西医大枚方病院から京阪枚方市駅までの間、シャトルバスを運行しています。お体の不自由な方を優先いたしますが、どなたでもご利用いただけます。

なお、車両の構造上、車椅子でのご利用はできません。



第2回 関西医科大学連携病院の会を開催いたします。

関西医科大学附属病院は特定機能病院であります附属枚方病院、地域中核病院の附属滝井病院と香里病院を有しておりますが、それぞれ急性期疾患に特化した診療を目指しているところです。信頼関係に基づいた円滑な医療連携を図ることを目的として、第2回連携病院の会を開催いたします。

当会では病院間の情報交換と患者さんのスムーズな紹介関係を構築したいと思っております。

日時 平成25年11月9日(土) 午後5時から

第一部 講演会 午後5時から

第二部 懇親会 午後7時から

場所 学校法人関西医科大学 大阪府枚方市新町2丁目5番1号

トピックス

topics

枚方病院に手術支援ロボット「ダ・ヴィンチSi」導入、手術開始しました

松田 公志 枚方病院副病院長・腎泌尿器外科部長



関西医大枚方病院は手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ Si」を導入しました。

「ダ・ヴィンチ Si」の最先端技術によって、従来の手術より更に正確で緻密な腹腔鏡手術が可能となり、手術成績のさらなる向上と適応の拡大が期待できます。

「ダ・ヴィンチSi」の特長と枚方病院での稼働

「ダ・ヴィンチ」は、アメリカで開発された手術支援ロボットで、2000年にFDA（アメリカ食品医薬品局）に承認されました。「ダ・ヴィンチ」は、小さな創から患者さんの手術操作を実際に行うロボットアーム、それを操作する術者コンソール、そしてコンピュータや内視鏡装置などを収納したビジョンカートから構成されています。従来の腹腔鏡手術と異なり、ロボットアームは先端が屈曲して自由度が高いこと、内視鏡が3Dハイビジョンで鮮明かつ精緻な画像が得られること、ロボットアームを術者が容易に自由自在に操作できることなどが特長です。



術者コンソール

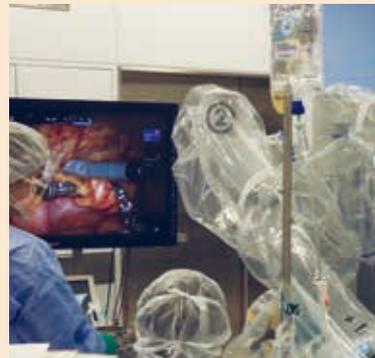
左右の目で見ることによって、肉眼と全く同じ立体視が可能。手前のコントローラを指で操作してロボットアームを動かします。

関西医大枚方病院では、本年6月に最新鋭機種「ダ・ヴィンチ Si」を導入しました。「ダ・ヴィンチ Si」は、内視鏡画像がさらに精密になるとともに、ロボットアームを操作する術者コンソールを2つ備えているため、2人の術者による協力や指導などを行うことができます。導入後、種々の手続きと術者、麻酔医、看護師、臨床工学技士のトレーニングを経て、8月22日から稼働しています。手術は、日本内視鏡学会・日本泌尿器内視鏡学会の内視鏡手術技術認定取得医で、かつ「ダ・ヴィンチ Si」のライセンスを取得した医師が行っており、1例目から手術時間は短く、術後経過も極めて良好です。

手術支援ロボットダ・ヴィンチSiの模式図



術者コンソール(①A、①B)、手術操作を行うロボットアーム(②)、コンピュータや光源などのビジョンカート(③)



枚方病院での手術風景

患者さんの上にダ・ヴィンチのロボットアームが覆いかぶさるようにして手術操作を行っています。

前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘除術に保険適応

わが国で保険診療が可能なダ・ヴィンチ手術は、現在、前立腺癌に対するロボット支援前立腺全摘除術です。本院腎泌尿器外科では、これまで腹腔鏡下前立腺全摘除術を年に100例前後（総計で750例以上）実施し、関西でもトップクラスの手術件数でした。ダ・ヴィンチを用いたロボット支援手術も、手術内容は腹腔鏡手術と全く同じですので、これまでの豊富な経験を生かし、さらに「ダ・ヴィンチ Si」の高機能を十二分に発揮することによって、これまで以上に質の高い手術を提供し、多くの患者さんにより早く元気に回復していただけることと確信しています。

コンソールからダ・ヴィンチを操作する術者

最新式のダ・ヴィンチ Si は、コンソールが2台あるため、教育や指導に活用できるのが特長です。

ダ・ヴィンチ手術の適応拡大

今後、膀胱全摘除術や腎部分切除術、さらに消化管手術などにおいても、ロボット支援手術が先進医療の認可を受けると予想され、高度医療を担う特定機能病院・大学附属病院として、「ダ・ヴィンチ Si」を最大限活用し、安全でよりよい医療の提供に邁進する所存です。どうかご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



心臓血管病センターが始動しました

かわぞえ こうへい
川副 浩平

関西医科大学附属滝井病院
心臓血管病センター長 理事長特命教授

連携施設の皆様には、常日頃多大なご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

これまで滝井病院の心臓・血管疾患の診療には、循環器内科が孤軍奮闘してあたって参りました。外科抜きの診療で皆様にも多々ご迷惑をおかけしてきたことと思いますが、7月に入ってようやく心臓手術を再開し、心臓血管病センターが本格的に始動しました。これで循環器内科、心臓外科、血管外科が一つになって診療にあたる体制が整いました。この2ヶ月足らずの間に、予定手術に加え既に3例の緊急手術が発生しましたが、各科・各部署の協力を得ていずれも適切に対応してトラブルなく手術を終えることができました。チームの全員が安堵するとともに、

医療チームとしての自信を深めつつあるところです。これからさらに専門性を高めてセンターの総合力の強化を計り、皆様のご要望にお応えすべく努力して参ります。

まさに今、大学も滝井病院も“進化”することをスローガンに掲げて、新たな出発を誓っているところですが、我々は何をする組織か？（我々の事業とは何か）を明確に意識して行きたいと思っています。

- 1.心臓血管病センターは、がん診療と並ぶ病院の重点策である循環器病診療を担う
- 2.医療連携ネットワークを基盤にして、地域に根差した循環器医療を推進する
- 3.心臓病から末梢血管疾患まですべての循環器疾患に総合的に対

応できるスペシャリストによるチーム作りを進める

- 4.予防医療から急性期治療そしてリハビリテーションまで、医療連携を生かした包括的な医療を展開する

が我々の基本姿勢および基本方針です。

循環器病の診療は各診療科・各職種の協調で成り立つと云ってもよく、既成の枠組みを超えた組織作りが必要です。医療センターである滝井病院だからこそできる医療の理想像を追い求めたいと思っています。皆様には、旧倍のご交誼とご指導をお願い申し上げます。



中央、女性二人のうしろが川副教授

滝井病院乳腺外科が再開しました

やまもと だいご
山本 大悟

関西医科大学附属滝井病院
 乳腺外科 科長

この度、5月1日より滝井病院の乳腺外科科長として診療をさせて頂くことになりました。平成18年、関西医大枚方病院開設に伴い、スタッフの問題から一時乳腺外科外来の閉鎖を余儀なくされましたが、3年後の滝井病院立替に伴い、ようやく再開できるようになりました。

当院の特徴として乳がんの早期発見に有用な3Dマンモグラフィを西日本で初めて導入しました。これは2方向から撮影することによって3D化（立体的にみえる）でき、癌の所見である構築のみだれとただの乳腺の重なりなどが判別できるようになりました。よって通常のマンモグラフィより精度の高い診断が可能となりました。また、従来からある乳腺超音波検査、MRI、CT検査にくわえ、さらに1mm以下の小さな癌をみつけることができる乳管内視鏡検査によって極めて初期の乳がんの発見ができるようになりました。



乳腺病棟スタッフたち(下部中央が山本先生)

さらに今回、関西医大附属病院のなかで初めて乳房再建外来を開設しました。内容として術前に乳腺外科医と形成外科医でカンファレンスを繰り返しおこない、患者さまの胸のかたちに合わせたかたちで自家移植（広背筋皮弁や腹直筋皮弁）やインプラントによる再建をおこない、より美しい胸の再建をおこなうようにしています。よって乳がんで乳房がなくならないようにするため、乳腺外科医と形成外科医との共同作業によって手術によって損なわれた乳房の変形をなくすべく、いわゆる‘元通りの乳腺’をつくりあげることができるようになりました。

また、薬物治療についても化学療法センターにて最新の化学療法、分子標的療法、ホルモン療法などを組合せた集学的治療を行っています。

そして乳がん術後の心のケアとして、2001年に関西医科大学滝井病院で乳がん術前・術後の患者さんのこころを癒す会として“ひまわりの会”が発足され、常時会員数約150人と関西で最大の患者会として活動しています。内容としては患者さん同士が、体験談などを通して、情報交換をしたり、お互いの友好を深めたり出来るように活動しています。乳腺外科医や看護師とともに定期的に講演会や温泉ツアーで診療の場を越えた関係を築くように心がけています。

乳がんに限らず、乳腺に関わることでしたら何でもご相談いただければ幸いです。

わたしたちは病院の標榜通り、“慈仁（めぐみ）を心の鏡とした患者本位の病院”を目指しますので地域の皆様、どうぞ宜しくお願いいたします。



ひまわりの会



滝井病院のPET-CT検査について

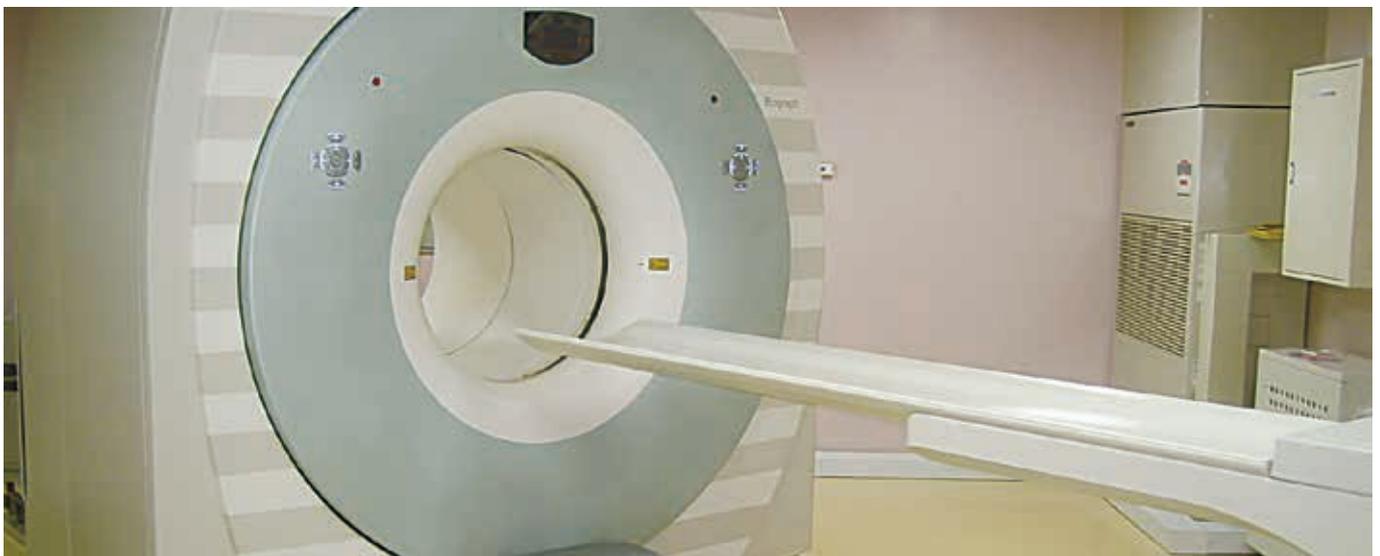
うつのみや けいた
宇都宮 啓太

関西医科大学附属滝井病院
PETセンター長

関西医科大学附属滝井病院PETセンターは、平成25年5月より最新のPET-CT装置を導入しスタート致しました。PET検査すなわち陽電子断層撮影検査は、「苦痛がほとんどなく一度の検査で全身を調べることができる」「小さながんも発見することができる」として、近年注目されている検査です。保険適応も早期胃がんを除くすべての悪性腫瘍に認められており、虚血性心疾患（通常の心筋シンチグラフィで判定困難な場合）、てんかん（外科手術が必要とされる方）にも適応があります。被曝は、胃の透視検査と同程度かやや多いぐらいで全く心配はありません。検査薬のF-18 FDGはブドウ糖とおなじ性質を持つ薬剤であり、癌細胞は通常細胞に比べて3～8倍のブドウ糖を消費する性質があります。これらの性質を利用して

F-18 FDG を体内に静脈投与し、その分布を同時に撮像されたCT画像に投影して診断します。従って、癌の早期発見・診断には大いに威力を発揮します。加えて、PET-CTはがん以外にも、アルツハイマー型認知症や心筋梗塞等の発見・診断にも有用であります（認知症の診断には保険適応が認められていません）。検査は放射性医薬品を静脈注射した後1時間ほどお待ちいただいて撮影するだけです。ほとんど苦痛はありません。がんの早期発見、あるいは、がんのひろがりや転移の診断のために、さらにはがん治療後の経過観察のための重要なmodalityとしてたくさんの皆様にご利用いただけるものと確信しております。PET-CT検査・検診の予約は当院の地域医療連携部（06-6993-9444）が担当しており、お電話頂ければ即

座に予約が取れるシステムとなっています。また、関西医科大学天満橋総合クリニックでは、CTやMRI、内視鏡、PET-CTなど最先端の検査を多数採り入れた新しい人間ドックが展開されております。当センターは同クリニックとタイアップし、PET-CT検診の役割を担っており、三大生活習慣病（がん・心疾患・脳血管疾患）を始めとする疾病の早期発見や疾患予備軍の発見に努めております。大学病院で活躍している熟練した看護師・技師・医師が検査・診断を担当するとともに、結果説明も経験豊かな医師が丁寧に行わせていただきます。大学病院の実績と特長を活かし、皆様のご希望に添えるよう努力してまいります。今後ともご支援ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



トピックス

topics

患者さん送迎用無料巡回バスが発進！！

関西医科大学附属滝井病院では、平成25年10月1日より大阪市営地下鉄、大阪市営バスを利用されている患者さんの利便性を高めるために、滝井病院（北館1階）と京阪本通太子橋今市1丁目交差点付近との間に、患者さん送迎用無料巡回バスの運行をスタートいたしました。

送迎バスは10人乗りで、毎週月曜日～金曜日の午前7時50分～午後4時、土曜日の午前7時50分～午後1時の間（いずれも休診日を除く）を約20分間隔で運行しており、停車場所は滝井病院北館1階北側玄関前、京阪本通交差点北側左折付近（太子橋今市駅自転車駐輪場入口前）、セブンイレブン守口京阪本店の3箇所となっております。送迎バスは当院を受診される患者さん及び付き添いの方がご利用いただけます。

送迎バスにはラッピングデザインがされており、一目で分かるようになっておりますので、当院に来院の際は是非ご利用下さい。

患者さん送迎用無料巡回バス

10月1日より運行開始

大阪市営地下鉄・大阪市営バスご利用の方の
滝井病院への来院が

便利になります！



【バス運行経路】



【バス時刻表(発車時刻)】

① 滝井病院 北館玄関前				② 大阪市営太子橋今市駐輪場前				③ セブンイレブン守口京阪本店			
7			50	7				7			
8	10	30	50	8	00	20	40	8	05	25	45
9	10	30	50	9	00	20	40	9	05	25	45
10	10		50	10	00		40	10	05		45
11	10	30	50	11	00	20	40	11	05	25	45
12	10	30	50	12	00	20	40	12	05	25	45
13	10	30	50	13	00	20	40	13	05	25	45
14	10		50	14	00		40	14	05		45
15	10	30	50	15	00	20	40	15	05	25	45
16				16	00			16	05		

- 無料でご利用いただけます。
- 休診日は運行しておりません。
- 土曜日は滝井病院北館玄関前12時50分発が最終の運行となります。
- 道路事情によりバスの到着が遅れることがあります。
- 車イスをご利用しての乗車はできません。
- 停留所以外での乗降はできません。

香里病院 部医長の紹介



信頼される医療を

よしだ りょう
吉田 良

関西医科大学香里病院
外科 部長

関西医科大学香里病院外科診療部長に就任しました吉田良です。

香里病院では、地域の先生方と一緒に診療にあたらせていただきます。当院では、患者に優しい定侵襲な手術を心がけており、腹腔鏡手術を広く取り入れています。腹腔鏡は、お腹の中（腹腔内）を直接見るため

の直径1cm程度の内視鏡です。お腹の中に炭酸ガスを入れて腹壁を持ち上げ、手の代わりに鉗子という細い手術器具を入れて、開腹手術と同じように手術を行います。

当院外科における腹腔鏡手術は、大腸がんや早期胃癌などの悪性疾患だけでなく、急性胆嚢炎や急性虫垂炎、S状結腸軸捻転、結腸膀胱瘻な

どの良性疾患に対しても行い、良好な結果を得ています。傷が小さく、痛みが少なく、回復が早いこと、内視鏡による拡大視が可能で開腹手術と比較して出血量をかなり少なく抑えることができます。今後も新しい技術の導入を計り、地域の先生方から信頼される医療が提供できるように努力いたします。



地域医療を支える皮膚科として

のぼり お れい こ
上尾 礼子

関西医科大学香里病院
皮膚科 部長

2013年7月より東田敏明前部長に代わり、皮膚科部長を拝命しました上尾礼子（のぼりお れいこ）と申します。

当科が地域医療を支える中核病院の皮膚科として、地域住民の方々の皮膚の健康を保つべく、地域の医院やクリニックの先生方との連携を大切に、みなさんに満足していただ

き、信頼していただける皮膚科となるよう努力していく所存でございます。

当科では、ご紹介いただいた患者さんに対する一般皮膚科治療はもちろん、入院治療や皮膚外科手術、光線治療やアレルギーの原因精査などの治療を提供する他、レーザー治療や巻き爪治療などの皮膚科治療につ

いても積極的に取り入れ、幅広い皮膚科診療を行ってまいります。

また、皮膚は内臓の鏡ともいわれ、内臓疾患の異常や体調の異常が皮膚に現れることも少なくありません。当科では単に皮膚を見るだけでなく、その原因を診て治療につながるよう努めます。



安心していただける医療を

はまだ さとこ
濱田 聡子

関西医科大学香里病院
耳鼻咽喉科 医長

私は、本年4月より香里病院耳鼻咽喉科医長として赴任となり、新しくきれいな病院で充実した勤務生活を送らせていただいております。

私は大阪医大を卒業後、関西医大耳鼻咽喉科に入局、大学病院での研修、大学院で聴覚中枢の研究を行ったの

ち、附属男山病院、星ヶ丘厚生年金病院勤務を経て現職となっております。臨床では、鼻アレルギー、副鼻腔手術、めまいの診断と治療を専門にしています。香里病院の特徴は、枚方病院と比べますと規模が小さい分スタッフ間の連携がよく、皆様のニーズにきめ細かく対応できる所であると思います。地域の先生方には

どんな症例でもご紹介いただけましたら、迅速に対応し診断治療致します。尚、当院で困難な症例は枚方病院と連携し対応してまいります。地域の皆様にわかりやすく、安心していただける医療を提供することを目標としておりますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。

VOICE

診療担当者の声



尿路結石症治療〈マルチパフォーマンスレーザー〉導入

ふくい かつや さいと ゆうや
医長 福井 勝也・医員 小糸 悠也 関西医科大学香里病院 腎泌尿器外科

平成24年10月1日より香里病院腎泌尿器外科に着任している福井勝也です。

当科は泌尿器科疾患について全般的に加療を行っており、2013年2月よりはルミナス社製 パーサパルス セレクト 30W(砕石用レーザー)を導入し、腎・尿管結石の治療も積極的に行っております。当科は地域に密着した治療をモットーに、諸先生方から「香里病院腎泌尿器外科に、任せていれば大丈夫」と思って頂けるように微力ではありますが、全力で尽くす所存ですので、何卒よろしくお願い申し上げます。



化学療法治療の看護支援は私におまかせ

にしおか りょうこ
西岡 良子 関西医科大学香里病院 外来化学療法室 がん化学療法看護認定看護師

外来化学療法室は、ベッド数10床(リクライニングベッド8床、一般ベッド2床)を有し、利用科は外科、乳腺外科、内科、腎泌尿器科、整形外科です。主に点滴治療が中心ですが、分子標的薬など、多種多様な抗がん剤の開発もあり、経口抗がん剤で治療されている方も多くなっています。

がん化学療法看護認定看護師として、患者の安全・安楽・確実に化学療法を実施することを念頭に活動しています。主に抗がん剤の副作用支援や患者さんや家族の方への意志決定の支援、相談を行っています。患者さんが、がんと診断されてから生じる治療や看護、病気による影響、家族の役割の変化、仕事、経済的状況の問題などをポイント、ポイントで適切に支援できるよう心がけています。

当院ではがん患者さんのとりまく問題を専門性の高い職種がそれぞれ役割を發揮し、情報を交換・共有してがん患者さんの治療・看護にチームで活動をしています。

今後はがん患者の全体をケアしていく為にも、地域との連携が重要と考えています。地域連携強化を目指し頑張っていくと思っています。今後共、ご指導、ご協力をお願い致します。

トピックス

香里病院からのお知らせ

10月より夕診に血管外来を開設

受付
時間

月曜日～金曜日 午後5時～午後7時(初診・再診)

(地域医療機関からの紹介であれば午後8時まで受付します。)

▶ 夕方診察 診療一覧表

夕方診療科	月	火	水	木	金
内科	○	○	○	○	○
小児科	○	○	○	○	○
外科* (血管外来)	○ (第1・3・5)				
乳腺外科	○			○	
整形外科		○ 初診のみ			
耳鼻咽喉科	○	○	○	○	○
婦人科		○			○

※平成25年10月より、第1・3・5の月曜日の夕診枠に外科(血管外来)が設置することとなりました。疾患としては、末梢動脈疾患(下肢閉塞性動脈硬化症など)、末梢静脈疾患(深部静脈血栓症・静脈瘤など)、腹部以下大動脈疾患です。(但し、一般外科は診療いたしません)

附属滝井病院 末梢血管外科部長
駒井 宏好 教授

▶ 診療体制

診療科	責任者医師	診療内容(主な疾病名等)
内科	高山 康夫 廣原 淳子 高橋 延行	呼吸器疾患(喘息、慢性閉塞性肺疾患)、循環器疾患(高血圧症、虚血性心疾患、心臓弁膜症、不整脈、心不全)、腎臓疾患(腎炎、ネフローゼ、慢性腎不全、透析療法)、内分泌代謝疾患(甲状腺疾患、糖尿病、高脂血症)、肝臓病(ウイルス性肝炎、脂肪肝、肝炎、肝硬変)、消化管疾患(食道・胃・大腸)・胆のう・膵臓疾患
小児科	荻野廣太郎	基本的に一般的な小児科疾患全般を診療しています。特に力を入れている分野は、小児アレルギー疾患(気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎等)、小児循環器疾患(川崎病ならびに先天性・後天性心疾患、学校心臓検診)、小児内分泌疾患(低身長・甲状腺疾患等)、小児神経疾患(熱性けいれん、てんかん等)、免疫不全を含めた感染免疫の分野です。
外科	吉田 良	低侵襲的な腹腔鏡下手術を積極的に行います。入院期間の短縮、痛みの少ない治療など、患者さんのQOLを考慮した治療を心がけます。対象疾患は胃癌、大腸癌、炎症性腸疾患、排便機能障害、胆石症、鼠径ヘルニアなどです。恐れ入りますが、手術枠の都合で待株と痔瘻の患者さんは他の施設をご紹介させていただきます。
乳腺外科	吉田 秀行	乳癌、乳癌検診の要精査、乳腺症、乳腺炎、乳腺腫瘍等の検査(一般病院ではできないマンモトーム生検マンモトーム生検(ステレオガイド下、エコーガイド下)乳管造影を含む。)治療(乳房温存手術、同時乳房再建術等)を行います。また、化学療法(入院・外来通院)も行っています。
整形外科	児島 新	四肢の外傷(大腿骨頸部骨折を含む)、手の外科一般(外傷～再建)、炎症性疾患(リウマチを含む)、変形性関節症(股関節を除く)、良性骨軟部腫瘍など除外疾患:手術適用の脊椎疾患、THA適用の股関節症、悪性骨軟部腫瘍
皮膚科	上尾 礼子	湿疹・アトピー性皮膚炎、蕁麻疹・中毒疹・薬疹、皮膚感染症(細菌・真菌・ウイルス)、座瘡、慢性膿皮炎、自己免疫性水疱症、乾癬、褥瘡、下腿潰瘍、陥入爪、皮膚良性腫瘍母斑の切除、液体窒素冷凍凝固術、母斑の切除、液体窒素冷凍凝固術、光線療法(ナローバンドUVB 照射療法)、ケミカルピーリング(自費)
腎泌尿器外科	福井 勝也	排尿障害、尿路悪性腫瘍、結石等、泌尿器科一般
眼科	埜本 慎	白内障、緑内障、網膜剥離、ぶどう膜炎、糖尿病性網膜症、ドライアイ、角膜疾患、網膜硝子体疾患、外眼病疾患、涙道疾患等
耳鼻咽喉科	濱田 聡子	慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、慢性中耳炎、顔面神経麻痺、難聴、めまい
婦人科	寺西 二郎	子宮頸部前癌病変及び子宮頸部異形成の手術及び管理、子宮附属器良性腫瘍の腹腔鏡手術
その他		
透析センター	高橋 延行	維持血液透析、各種吸着療法を行っています(月曜日～土曜日)
化学療法部	吉田 良	外科(大腸癌、胃癌)、婦人科、乳腺外科また呼吸器内科の抗癌剤治療を化学療法室で行っています。
内視鏡部	廣原 淳子	上部・下部消化管疾患の診断(色素内視鏡・NBI・EUS等)、上部・下部消化管早期悪性腫瘍の内視鏡的治療(EMR・ESD等)、バルーン拡張術PEG増設、胆膵疾患の内視鏡的診断と治療(ERCP・ENBD・ERBD等)
放射線部	大村 直人	画像診断を通して、地域医療に貢献します。
機能訓練室 (リハビリテーション)	児島 新	脳疾患、整形外科疾患、内科疾患、術後などの回復治療を行います。



天満橋総合クリニックは、予防医療を軸とした地域医療連携をさらに促進いたします。

うらかみ まさや
浦上 昌也

関西医科大学天満橋総合クリニック
院長

天満橋総合クリニックは、予防医療を軸とした地域医療連携を促進するため、総合健診センターおよび総合外来の機能をさらに充実させようとしています。



老朽化した施設を機能的で美しく改装する作業を、クリニックの機能を維持しながら、段階的かつ着実に進めています。OMMビルの3階の半分のスペースを完全に占有し、新しいCT検査機器を導入しました。その他の最新の検査機器も充実させています。



総合健診センターでは、滝井病院に開設されたPETセンターと連携した人間ドックを開始しました。従来の人間ドックを天満橋総合クリニックで受けていただき、さらに脳ドックやPETによるがん検診を附属病院の最新の機器を用いて受けていただくことが可能になりました。

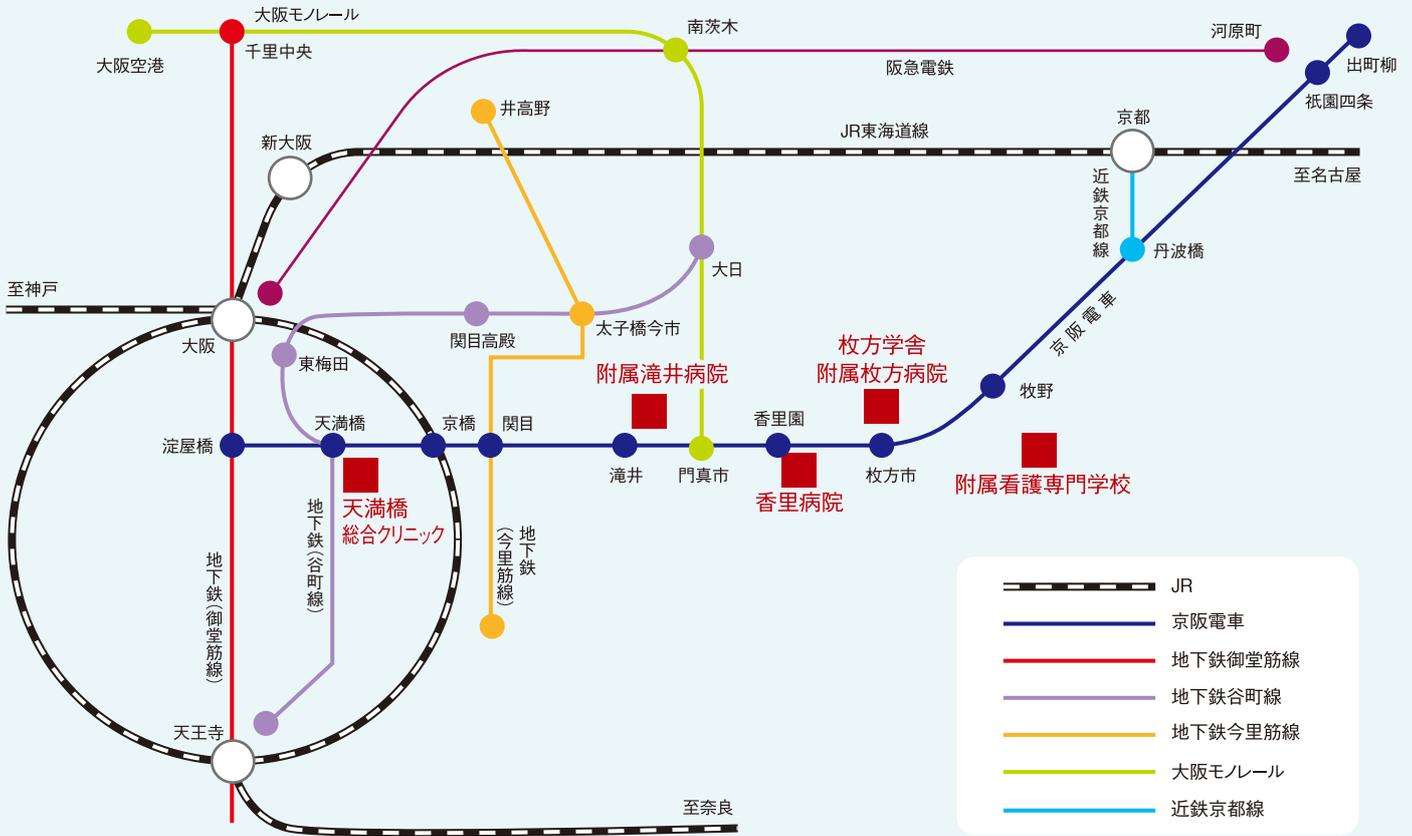
人間ドック健診で見つかった異常の精密検査をすみやかに大学附属病院で行える態勢を整えつつあります。その一方で、地域の医療機関への紹介も積極的に行っています。

また、需要の多い簡易な健診を多く受け入れるように態勢を整えつつあります。

放射線科では、豊富な臨床経験を有する浅井部長が着任し、従来の胃透視診断、胸部単純レントゲン診断に加え、胸部CT検査、脳MRI、MRA検査やマンモグラフィ検査などの診断においても力を発揮し、診療の幅が広がりました。

天満橋総合クリニックは総合健診部門の充実のみならず、外来の診療体制を抜本的に見直す作業に着手しました。時代の変化に対応し、より地域のニーズに応じた外来診療を目指したいと考えています。是枝医師の着任により消化器肝臓内科部門を強化しましたが、今後は大学の各科より専門医の派遣をうけて、乳腺外来など種々の専門外来をさらに充実させてゆきたいと考えています。





関西医科大学 地域医療センター

附属枚方病院

☎072-804-0101 (代) <http://www.kmu.ac.jp/hirakata/index.html>

〒573-1191 大阪府枚方市新町2-3-1 地域医療連携部 病診連携課(地域医療センター事務局) TEL 072-804-2742 FAX 072-804-2861

附属滝井病院

☎06-6992-1001 (代) <http://www.kmu.ac.jp/takii/index.html>

〒570-8507 大阪府守口市文園町10-15 地域医療連携部 病診連携課 TEL 06-6993-9444 FAX 06-6993-9488

香里病院

☎072-832-5321 (代) <http://www.kmu.ac.jp/kori/index.html>

〒572-8551 大阪府寝屋川市香里本通町8-45 地域医療連携部 病診連携課 TEL 072-832-9977 FAX 072-832-9988

天満橋総合クリニック

☎06-6943-2260 (代) <http://www.kmu.ac.jp/temmabashi/index.html>

〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目7-31 (OMMビル 3階) TEL 06-6943-2260 FAX 06-6943-9827